

2025 年 3 月 12 日

通貨ニュース

マレーシア：3 月金融政策会合～現状維持、景気・インフレは安定的に推移

マレーシア中銀(BNM)は 6 日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利を従来の 3.00%に据え置いた。政策金利の現状維持は 23 年 7 月以降、11 会合連続での決定となった(図表 1)。ブルームバーグの事前予想では現状維持が優勢だった。

声明文では世界経済について成長が続くとの見方を示した一方、米国の通商政策や世界各地での地政学リスクの高まりなど複数の不確実要因を指摘した。こうした中でも、マレーシア経済は内需主導で成長が継続していると総括。24 年の実質 GDP 成長率は前年比+5.1%で着地しており、25 年についても、成長率予想は据え置かれた。堅調な個人消費、労働市場の回復、民間・政府における投資の活性化、電子製品輸出の持ち直し、観光業の本格化など複数の景気押し上げ要因に触れつつ、前年比+4.5～5.5%の間で底堅く推移するとの見方を示した。一方で、堅調な経済成長の裏で、個人消費が前四半期との比較で僅かながら 2 四半期連続でマイナスとなっている点は留意したい。外部要因に起因した景気後退懸念が内需に波及することが目下のリスクとなろう。

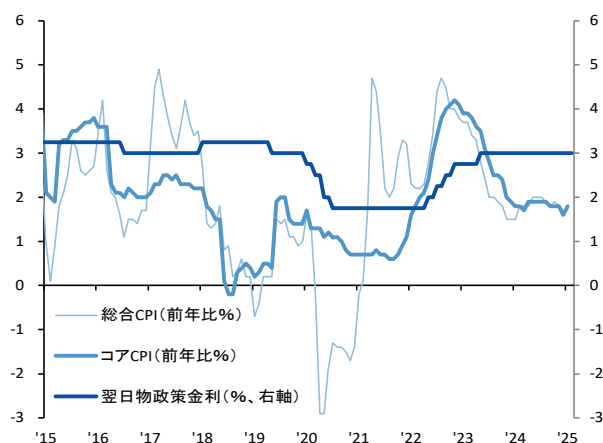
物価動向に関しても、引き続き制御可能な水準を推移するとの見解を示した。直近 1 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.7%、生鮮食品と政府による価格統制品を除くコアベースは同+1.8%を記録した(図表 1)。25 年については資源価格の軟化がインフレ抑制の支援材料となりつつ、最低賃金上昇がインフレ動向にもたらす影響は軽微であるとしている。インフレ基調は上にも下にも傾いておらず、当面は外部環境の変化に伴う短期的なインフレリスクを警戒していくものと予想される。

かかる中、BNM は現行の金利水準は引き続き景気を下支えし、現行の物価と経済の評価と整合的であるとして、政策金利を維持した。全般的な景気・物価に関する認識は前回 1 月会合から変わっておらず、まずは先述した外部環境の不確実性を見極める時間帯が継続していきそう。引き続き、市場では BNM の政策運営が現状維持を中心に検討されていくものとの見方が強い。

3 月の MYR 相場の反応はドルの下落に伴い値を上げているが、やはり主な相場材料となるのは米国の通商政策や金融政策の動きとなろう。BNM 会合以降の MYR 相場は一進一退の動きとなっており、国内で真新しいイベントがない中で、次の材料を探る状況だ。先述の景気・物価動向を踏まえると、ASEAN 通貨の中では個別要因で手放される可能性は低いと思われるものの、トランプ関税を巡る市場心理の悪化に抗えるものでもない。次の相場イベントは下旬に控える FOMC となりそうである。にわかに米国景気後退懸念が強まる中で、ここまでタカ派路線を支持してきた FRB の経済・物価に関する認識に変化が出ていないかどうかは確認する必要があるだろう。

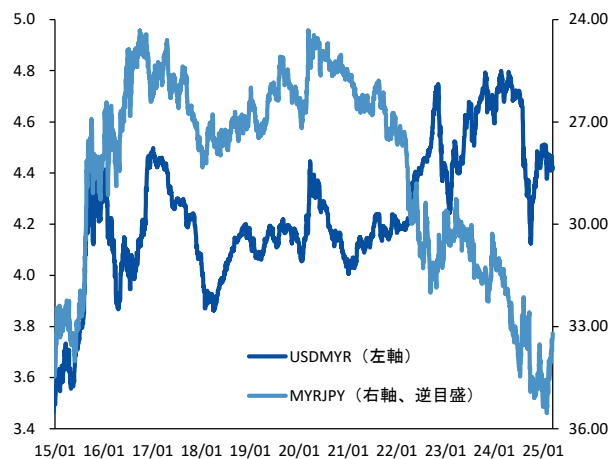
金融市場部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: MYR 相場の推移



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。